

埼玉育ちのグローバル人

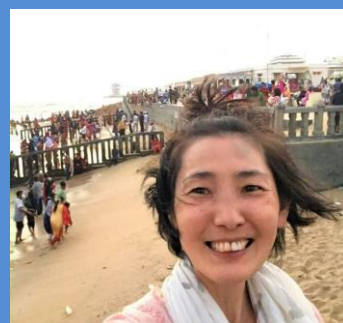
インドで仕事をしてみたら

～私の常識は私だけのあたりまえだった～



第1回「これがいわゆるカルチャーショックかあ」

吉村 比佐子さん



インドにはどんなイメージをお持ちですか？
これを読んでくださっている方にお会いして意見交換したい気持ちでいっぱいです。
そんな風に思うようになったのはインドで働いたことも影響しているかなと思います。少し前から日本でも性別、年齢、国籍、宗教などの多様性を認めて、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる場を作ろうという考え方が注目されていますが、そもそもインドでは多様性は認めるものではなく、異なることが当たり前です。同じインド人でも言語が異なり、宗教も食べ物も違うので、お互いを理解し、尊重するためにとにかく話します。
“あなたはどうか考える？どう思う？どうしたいのか？”…インドで働いていた頃に日本の比ではなく投げかけられた言葉です。

インドとの縁

私の初めての一人旅はインドです。1997年ですから、まだ生まれていない方がほとんどでしょうか。バンコクでインド行きの航空券を買った方が安く、ビザも安いと聞き、バンコクまでの片道航空券だけを手に、日本を出発しました。何をするにもネット予約もできず、スマホもなく、周りの人に聞くしかない時代です。
その時に出会ったのは観光関係だったこともあるのか、とにかく主張が強い人ばかりでした。その影響を受けてか、私も誰にも遠慮せずに我を通すことができ、自分の意思を伝え、情報を得、やりたいことを叶えることができたのがインドの地となりました。

インドで働くきっかけ

海外で働きたいと思いはあるものの、海外赴任のオープンポジションに応募した以外は特に行動を起こすこともなく、新卒で入社した会社で働き続けていました。勤続20年目のある日、家族の海外赴任ポジションへの転職が決まりました。イン

ドで働くきっかけは自分で勝ち取ったものではなく、家族に便乗して得たのです。
それから転職活動をし、インドで日本企業向けの人事コンサルティングをする会社の職を得ることができたのは2017年のことです。初めてのインドからちょうど20年ですね。働いたのは2018年から2021年までの3年と少しです。働くにあたり、旅行では訪れたことがあるので、衣食住といった生活面は全く心配していませんでした。仕事も英語ではあるものの、経験の延長戦なので、まあ大丈夫だろうと思い、念願の海外で働く日を待ちわびていました。



勤務初日 え～、新年早々の遅刻、それもほぼ全員？！

日本と違って三が日が休みということではなく、勤務開始日は1月2日でした。最初だから少し早めにと出勤しましたが、10分前になってもほとんど人がいません。勤務開始時間の9時を過ぎて、バラバラと出勤してくるのです。聞けば、15分の遅れは遅刻ではないとのこと、但し、4回目は遅刻になる。この15分遅刻3回までOKというルールは

ほぼ 100%の日系企業が採用していました。



入社挨拶で“with Egg?”

牛肉、豚肉は食べないことやベジタリアンが多いことも事前に調べていましたので、“これからよろしくね、お肉は含まれてないから、ベジタリアンも大丈夫な日本のおみやげです”と言って配っていました。ある人から“with Egg?”と聞かれ、一瞬？それがきっかけで、卵を食べない人がいること、土中のものを食べない日があることなどを教えてもらいました。それから見たり聞いたり、調べてみたりを通し、食に関しても地域などによって様々な違いがあることを知りました。興味を持った方は調べてみてくださいね。ちなみにせんべいやチョコレートが好まれ、抹茶味は微妙そうでした。



働いてみたら

働くには、協力し合うこと、チームワークが重要で、報告・連絡・相談が大切だと私は考えています。問題が起こりそうな段階や納期に間に合わないかなと思った時点で相談し、一緒に対処策を練ることと対応策を考えること、つまり“事前に”です。

加えて、お金をもらって働いているのだから、任せられた仕事は責任をもって期日までにやり抜くこと、つまり“責任感”です。日本で働いていた時は、わざわざ言わなくてもみんなが当たり前実践していたので、意識することはありませんでした。でも、そうじゃなかった。

私が働いていた日系企業の職場ではとの枕詞が付きませんが、インド人スタッフは自己主張は強めですが、日本人や年上、上の役職には失礼にあたると考えるのか、基本的には No は言いませんでした。お願いには全力で対応してくれる…心強いですね、いえいえ、違います。力強く否定します。都合が悪い事には返事せず、無視したり、できないことでもできると答えたりします。例えば、メールで問い合わせしても、都合の良い部分だけに返事をくれ、都合悪いと音沙汰なしです。よくよく話してみると、全く悪気はなくて、できないと言うと悲しませるからと言います。一人ではなく、何人も。

あ〜、私は自分の経験の範囲しかモノを見ておらず、自分の常識に囚われていました。

一緒に仕事をし始めたばかりの頃は、できるという言葉信じて待っていました。応答がないので状況を確認すると、何も手付かずであることが判明したり、違うものが出来上がってきたり。また、聞いたことには答えてくれるけど、他のケースがあることを教えてくれなかったことも。例えば、有給についてですが、日本では労働基準法で決まっていて、全国共通ルールですよ。ですが、インドでは州ごとに定められていて、例えばデリーとムンバイでは付与される日数が異なります。州法が優先することを知る機会がなかったので、デリーの日数で作成してしまい、ムンバイのお客様の就業規則を誤って作成していたことをかなり後になって知ったこともあります。もちろん、謝罪しました。でも、まったく悪気はないのです、聞かれなかったから答えなかったのです。

無力感を感じた時、空を見上げると自然と涙がこぼれるって、本当なのですね。できない時はできないと言って欲しいし、他にもこういうケースがあるよと教えて欲しい〜と、大気汚染で太陽が見えない空を見上げ、静かな涙が流れた私を懐かしく思い出します。